

9 月定例記者会見 会見録

令和元年(2019 年)9 月 4 日 (水) 11:00～11:30 庁議室

質疑応答

■ 「つくばスタートアップパーク」のリニューアルオープンについて

記者

「つくばスタートアップパーク」の名称に関して、市長はどんな思いがあるのか、また略称があれば伺います。

市長

名称については、スタートアップがたくさん集まり、新しいものが生みだされていく場、また公園のような場所であってほしいという思いを込めました。またつくば市は公園が多い街ですし、立地的にも公園に隣接しているという理由もあります。略称は「スタパ」と呼んでいただきたいです。

なお、常設のカフェスペースは、市内の事業者であるコーヒーファクトリーが担当する予定です。オープンにあたっては利用者が訪れるだけで嬉しくなる場所としたいと考えています。

記者

つくば研究支援センターやアイアイモールにもコワーキングスペースがあり、競合する部分があると考えられますが、このような既存の施設がある中で、さらなる利用者のニーズはあるのでしょうか。

スタートアップ推進室長

つくば研究支援センター、アイアイモールの up Tsukuba などの既存施設とは利用者のすみわけができるのではないかと考えています。「つくばスタートアップパーク」は筑波大学の近くにあるので、学生起業や大学の研究成果からのスタートアップをメインターゲットにしています。一方でつくば研究支援センターは産総研や JAXA の近くにありまますので、研究所発スタートアップが多いのではないかと考えています。

記者

料金の違いはありますか。

スタートアップ推進室長

民間企業を圧迫しないようにしておりますので、つくば研究支援センター、up Tsukuba を考慮したうえで、やや高めの料金設定にしています。

記者

やや高めの料金設定ということだと、大学生が利用しにくい料金ということになりませんか。

毛塚副市長

up Tsukuba はドロップイン（一時利用）よりも定期利用で収益を得る料金構成になっていますので、「スタートアップパーク」は、定期利用の料金を up Tsukuba より上げています。

一方でドロップインの料金は、up Tsukuba と比較して安く設定しました。これによって起業準備段階の大学生も気軽に利用しやすい料金構成となっています。

■「つくば Society5.0 社会実装トライアル支援事業」について

記者

採択された5社の支援金は、1社あたり最大100万円だったと思いますが、配布額はすでに決定しているかどうか伺います。

科学技術振興課長

採択された事業者と事業計画を確認し、費用として認められるものと、認められないものをよく吟味しながら決定していきます。100万円の中で効果的な実験ができるように進めています。

記者

どれくらいの期間で決定するか、見通しについて伺います。

科学技術振興課長

今月中には決定する予定です。

記者

「ドローンを使った配送の社会実装プロジェクト」に関して、全国的な状況や環境について伺います。

科学技術振興課長

全国的な状況に関して詳しい調査はしていませんが、空中の利用権を設定するという点は、独自の提案だと聞いていますので、前例がないものだと認識しています。

記者

実施時期は今年度中ということでしょうか。

科学技術振興課長

詳細は決定していませんが、年度内には実施する予定です。

■「未来構想キャラバン《周辺地区子育て世代》」最終審査について

記者

谷田部地区と流星台地区を会場に選んだ理由を伺います。参加対象者はそれらの地域の方限定なのですか。

市長

参加対象者は特に限定していません。市内全地域で開催することが理想ですが、現実的に難しいですので、子育て層が多い周辺地区の二か所を選んでいきます。

政策イノベーション部長

元々、市庁舎で行う案がありましたが、参加される方の利便性を考えると遠方になる方も想定されます。できるだけ参加者が増え、参加しやすい環境を整えるために2か所での開催にして、駐車場の確保を含め便利な場所を選ばせていただきました。参加対象者は地域に限らず幅広く募っています。

終了